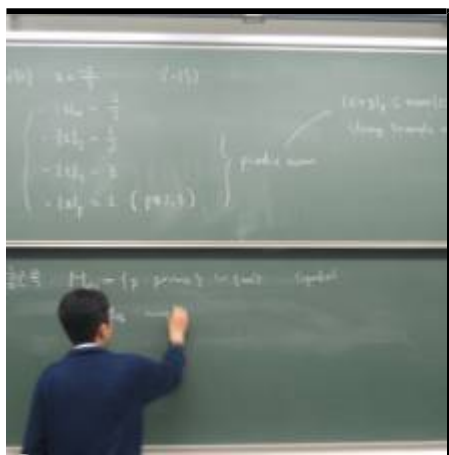


第19回

- 講演者：川口 周 氏 (京都大学)
 - 題目：有理点の高さとアフィン空間の自己同型写像
 - 日時：平成19年1月31日（水）16:30～17:30

射影空間やアフィン空間上の有理点の高さは、その点の算術的な「大きさ、複雑さ」を測る量と考えられ、有理数係数の方程式を調べるときに役立つ。いま、アフィン空間の自己同型写像 f で、ある良い性質をみたすものが与えられたとしよう。 f の反復合成に関する性質は、例えば f の係数が複素数のときは複素力学系で深く調べられている。談話会では、係数が有理数のときに f に関してよく振る舞う高さ（標準的高さ）を構成することで f の算術的な性質がいくつか導けることを話したい。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

12 images

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2006/019>

Last update: **2017/11/17 17:29**

